

伊勢物語古注釈書引用和歌

(2) 伊勢物語奥秘書

第四十五段

幽魂化蛭登雲上 人間在往北斗裏 観旁帰雁
別離

さざ浪のよるは筵をしける江に

たがぬる玉ぞ蛭飛ぶかげ

(9) 伊勢物語集注

第八十七段

蘆の屋の蛭やまがふ海土やたく

思ひも恋も夜はもえつつ